

新庁舎整備事業市民説明会 2021
意見交換結果概要（11月12日太田地区開催分）

○日 時 令和3年11月12日（金）午後7時～8時30分

○会 場 生涯学習センター

○出席者 16人（参加市民）

○内 容

□【質問・意見・提案等】

⇒【回答】

□広報紙には市債は320億円と記載があり、減少傾向というのは。

⇒市債には（地方交付税の不足分を賄う為に国が措置する）臨時財政対策債もある。説明会資料では、一般会計において市税を中心とした財源によって返済していく事業債を表示しており、その減少傾向が続く見込みである。

□25億円の財政調整基金を維持していくというが、市債は返せるのか。

⇒将来負担比率は、現在マイナス44.7%である。新庁舎の整備にあわせ、将来負担比率は上昇するが、0%を超えることはないの見通しをもっている。よって、（将来において過度な財政負担となることなく、安定して）返済していける見込みである。

□市民税が上がるということはあるのか。

⇒新庁舎整備事業によって市民税を上げることはない。

□（新庁舎整備計画地の）浸水深は（木曾川洪水浸水想定区域図：想定最大規模において）5～10mになるというが、1000年に一度といわれる災害は明日来るかもしれない。こんなに水がつく場所に（新庁舎を）作ることはおかしい。

⇒（木曾川洪水浸水想定区域図：想定最大規模における）1000年に一度の確率想定は国土交通省が定めている。（100年に一度と想定される）計画規模と最大規模の2つの想定が示されているが、これは（1000年に一度の想定だから）決して安心だという印象を与えるものではない。木曾川洪水浸水想定区域図はハザードマップであり、皆さんに（いざという時は早く）逃げて下さいということを伝えるもの。新庁舎は十分な浸水への対策を行って整備したい。

□サテライト拠点が充実すると本庁舎に来る人は少なくなり、よほどの魅力がないと人が集まらない。

駅南では、商業ビルやマンションなどをつくる計画もあるそうだが、魅力的な商店街をつくれるのか。今は、駅北がとても発展している。

⇒サテライト拠点が充実すれば、新庁舎に（申請や手続きの為に）来る人は少な

くなる。新庁舎（の庁舎機能のみ）が人を集める場所になるとは考えていない。新庁舎はコンベンション機能なども兼ね備えた複合的な建物を想定しており、そうした目的での利用とあわせて（いろいろな目的のために人が集まり）、にぎわいを創出できるものと考えている。

駅南の発展は市の課題であり、駅北との差別化を考えながら進めていきたい。

□（ライフサイクルコストの比較において）、美濃太田駅周辺以外の候補地では、（市商業ビルの30年間にかかる維持管理費として）30億円が積算されているが、新庁舎とは関係ないことではないか。

コンパクトエリアというが、車でどこにでも行ける時代であり、太田地区以外を差別しているのではないか。

⇒維持管理費の30億円とは、市商業ビル（現シティホテル美濃加茂）を今後30年間使用し続けるために必要な費用。新庁舎は、市商業ビルのもつ機能を複合した建物として整備する。（駅前にコンベンション機能は必要であるという共通した考え方により）美濃太田駅周辺を除く各候補地においては、市商業ビルの維持管理費用である30億円をランニングコストに含んで考えている。

コンパクトエリアは立地適正化計画等に基づいて、地域課題を解決するためのあり方、考え方である。基本構想の策定段階より太田地区以外の人意見も取り入れて進めている。

□説明は理解できた、大事なことはどこに（新庁舎を）建てるかということ。これから先、若い人たちがここに住んでよかったというまちづくりが進むことが大切。

⇒いろいろな評価をした上で、新庁舎の整備地として美濃太田駅前が一番優位であるという説明をさせていただいている。

□美濃太田駅は美濃加茂市の玄関であり、新庁舎を整備した際における波及効果のあるところ、美濃太田駅周辺が最もよい。